

平成 28 年度効績章表彰について

平成 28 年 10 月 14 日

公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、10月14日に、東京都立川市において、勤続年数満25年の職員に対する平成28年度効績章の表彰式を下記のとおり開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 日 時 平成28年10月14日（金） 11:00～11:45
2. 場 所 パレスホテル立川（東京都立川市）
3. 受章者 22名
4. 列席者 理事長 熊谷則道、専務理事 澤井潔、専務理事 高井秀之、
理事 奥村文直、理事 米澤朗、理事 渡辺郁夫、監事 稲見光俊、
企画室長、コンプライアンス推進室長、総務部長、経理部長、
情報管理部長、国際業務部長、研究開発推進部長、JR 部長、事業推進部長 他

理事長 熊谷則道が表彰式で受章者に表彰状を手渡した後、祝辞を述べ、永年勤続の労に敬意を表しました。理事長の祝辞を受け、受章者を代表して鉄道力学研究部軌道力学研究室長 陳権が答辞を述べました。



写真 表彰状を手渡す熊谷理事長と受け取る受章者

【理事長祝辞要約】

勤続 25 年を称える効績章を受章されましたこと、まことにめでたうございます。皆さんが入社された平成 3 年は JR になって 4 回目の採用でありました。JR 会社等は民営化後に何とか経営を安定させるために様々な施策を打ち出した時期です。このような時期に新生 JR に加わり、鉄道をよくしようという気概をもって入社されたことと思います。平成 3 年は国内ではバブル崩壊の予兆、国外では東西ドイツの統一後にあって、ヨーロッパでは政治的なバランスを取ろうとするなど大きなレジームの変動があった年でありました。

皆さんが勤務された 25 年間は、公益財団法人として二ヶ月後に設立 30 周年を迎える鉄道総研の歩みと同じ時を刻んできています。皆さんの成長と鉄道総研の成長は同期していると思います。

皆さんが入社された後、数年は先輩たちの背中を見ながら、またその後は自発的な意思によって鉄道の技術課題の探索や課題解決のための研究の手法を 1 つ 1 つ積み重ねて研究基盤を着実に築かれてきたと思います。これから、現在の 25 年を 1 つの通過点とし、鉄道をさらに良くすることや鉄道の価値を高めるための活動にまい進していただきたいと思います。同時に今、皆さん方は若い人たちから背中を見られる立場になっています。活力ある次の世代を担う職員に、ぜひ皆さんの蓄積された基盤を伝えてください。

皆さんも御承知のように、鉄道総研は活動のビジョンを設定しています。鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献するというビジョンです。このために、安全性や技術の向上のためのダイナミックな研究開発、技術的良識に基づいた事故・災害の原因究明等の活動、さらに鉄道技術で海外をリードする活動を行うという 3 つのミッションを設定しています。これらを着実に実施し、高い品質の成果を生み出し、鉄道事業者をはじめとする社会から信頼を得ることを鉄道総研の目標としました。

研究開発の活力は、鉄道システムへの好奇心から生まれるものだと思います。好奇心は研究の創造性を引き出します。これからも、鉄道総研の目標達成のために、皆さんの好奇心と力をお貸しいただき、鉄道総研の研究開発成果をトリガーに鉄道を進化させてまいりましょう。

ご列席されているご家族の皆様、永年勤続のお祝いとお礼を申しますとともに、皆様のこれからのご健康を祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。



写真 祝辞を述べる熊谷理事長

【受章者代表答辞要約】

本日は、勤続25周年を迎えました私どもに効績章を賜り、誠にありがとうございました。

私どもは、平成3年の入社であり、鉄道総研として最も採用者が多い年でした。当時の鉄道総研では、寄附行為の理念に基づいた新たな運営基盤を確立するべく、自主・自立した活力のある研究組織づくりに、役員、職員の皆様が一丸となって取り組んでいました。

この25年の間、鉄道技術はめざましい発展を遂げ、その中で、私どもの研究が、安全・安定輸送に、幾ばくかの貢献をなし得てきたことは、大きな喜びであり、誇りでもあります。

現在、国内の鉄道は、大規模地震などの自然災害、少子高齢化、インフラの老朽化など、様々な課題に直面しています。一方、海外では、インドを始め多くの国が鉄道整備を積極的に検討・推進しており、ハイレベルでの国際協力が要請されています。また、産業界ではネットワーク、IoT、ビッグデータ、人工知能、無人運転と世の中は目まぐるしく変化しています。こうした新たなニーズの中で、私たちは、鉄道のイノベーション、研究開発の効率化とスピードアップなどに取り組んでいかねばなりません。

鉄道総研は、ビジョンを掲げ、鉄道界をはじめ社会からの負託に応えるための、志や将来の方向性を示しました。私たちも、日本の鉄道技術の先端を担うとともに、鉄道総研が世界の鉄道技術をリードする研究所となるべく、より一層の努力が必要となるものと考えております

本日の効績章を機に、初心に立ち返り、これまでの経験や実績に慢心することなく、鉄道総合技術研究所の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後とも業務に精励することを誓い、御礼の言葉とさせていただきます。



写真 答辞を述べる 陳室長